

令和7年度 第2回五條市総合教育会議 議事録

■日時：令和8年1月29日（木） 10時から10時45分

■場所：五條市役所 2階 災害対策室

■出席者

平岡 清司 市長

井上 恵充 教育長

井本 誓晃 教育委員

寒川 英明 教育委員

大西 修二 教育委員

井田 栄子 教育委員

■事務局等

市長 公室 長 池嶋 晶

あんしん福祉部長 馬場 由美子

教育部 長 安満 義尚

市長 公室 次長 神山 博美

あんしん福祉部次長 笹谷 豊

教育部 次長 安野 寿仁

教育総務課 長 辰巳 斉彦

学校教育課 長 徳本 義和

生涯学習課 長 辰巳 大輔

文 化 財 課 長 前坂 尚志

子どもサポートセンター所長 古澤 祐子

企画政策課長補佐 上平 潤介

教育総務課長補佐 辻本 洋一

1 開会（議事進行 池嶋市長公室長）

2 平岡市長挨拶 要旨

教育委員の皆様並びに教育長には、日々のご尽力とご協力に深い敬意と感謝を申し上げます。

本日は、前回に引き続き、第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画の策定についてご協議をいただくわけであるが、前回いただいた委員各位の貴重なご意見、市内学校現場の意見及びパブリックコメントによる市民の皆様の声を聴いた上で作成した案に基づき、さらにご協議いただく。

本日の議論が、より良い教育の方向性へとつながり、五條市の子どもたちと地域全体の未来をよりよく開く一歩となるよう進めてまいるため、一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

■議事録の署名

- ・平岡市長及び井田委員が署名を行うことで承諾。
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、会議及び会議

録は公開とすることで承諾。

3 協議事項

(1) 第2期五條市教育大綱の策定 ≪説明：辰巳教育総務課長≫

令和7年度第1回総合教育会議（令和7年11月27日開催）での意見や学校現場からの意見等を反映させた修正・追加点について説明

【質疑・意見等】

(寒川委員)

公民館や図書館の利用者データについて、現状把握しているのは人数のみか。年齢割合などの内訳はないのか。

次年度以降、可能であれば、小学生、中学生、一般などの利用者層の内訳が分かるようにしてほしい。

(辰巳生涯学習課長)

現状は利用人数のみ把握しているが、今後調査を行う方向で進めていく。

(平岡市長)

年齢層については、今回の大綱に掲載するのか。

今後、図書館を新設しようとしているにも関わらず、利用者の人数などのデータが不足しているということは、既存の図書館との連携が取れていないのではないのか。

(井上教育長)

市長がおっしゃったように、市を挙げて中心市街地活性化に向けて図書館を整備予

定であるが、やはりこの内実のデータは非常に大事なところだと考える。

年配の方がたくさん図書館を利用しているのか、逆に小さな子どもたちの方がたくさん利用しているのかどうかによって、図書館の中に入れる本のジャンルが変わってくるなど、そこに直結する内容である。

また、現代ではデジタル図書が何万点も出ており、そのことも関連するため、今回の大綱には掲載できないかもしれないが、利用者数に加えて利用する年齢層を調べておいて、次につなげていくということが大変大切である。

(大西委員)

公民館の一利用者としての意見だが、毎年公民館の利用者に対するアンケートが行われているため、回収率等は不明であるが、その結果を精査すれば、多少は参考になるかもしれない。

(井田委員)

新図書館に計画中である「おはなしの部屋」の規模について、担当課から意見を求められている。現在図書館で実施している「おはなしの会」のおおよその参加人数は確認することはできるのではないか。この大綱に掲載しているのは図書館全体の利用人数であるが、「おはなしの会」の具体的な人数が判明した際には、教えていただきたい。

(井本委員)

今までの図書館の利用者層、そして市長がおっしゃった新図書館開館後の利用者をつなぎ留めておくためのビジョンを持つことが大切である。

(安野教育部次長)

井上教育長からご指摘があった、資料4ページに記載の「関係機関及び家庭との連携の推進状況」について、本計画での具体的な施策の指標は、学校、こども家庭センター、家庭との面談、教育内容の確認という4回以上の関わりにより連携を図ってきたいと考えている。

その他、ご指摘があった項目については、具体的な施策の指標を記載していく。

(井田委員)

資料14ページにある「多様な教育的ニーズに応える環境の充実」というところで、個人的に両親が日本国籍でない子どもと関わることもあり、近年外国にルーツをもつ子どもが増えていると感じている。

現状と課題の項目で、「近年、外国にルーツをもつ家庭が増加しています。」と記載があるが、現状と課題として認識しているのであれば、施策の指標にもそういった家庭に対してどのように展開していくのかを記載するべきではないか。これから市内で働く外国人が増え、市内で結婚して子育てをする家庭も増えてくることが予想される中で、言葉が十分に伝わらない子どもたちへの具体的な対応が重要である。

(徳本学校教育課長)

学校教育においては、外国にルーツをもつ小・中学生を把握しており、教育総務課が日本語指導の教員を配置している。また、学校では児童生徒全員がタブレットを持っているため、タブレットを利用して翻訳することはできる。

今後の取組として、より直感的に使える翻訳ツールの導入も検討している。

(井上教育長)

五條市の教育全体についてということで、子どもたちは宝であり、どう育てるかということが中心にはなっているが、五條市の教育大綱におけるアクションプランであるため、地域全体を含めて客観的に見つめ直す必要がある。

多岐にわたる事柄であるため、全てを網羅することは難しいと思うが、大きな方向性はやはり示していかなければならない。

市全体で取り組むべきことで、何か抜けていることがあれば、今後でも構わないので意見を寄せてほしい。

(寒川委員)

資料15ページに記載がある教職員のメンタルヘルスケアについて、長期で休んでいる教職員の中に、メンタル的なことが原因と思われる教職員もいるが、ストレスチェックで問題が示唆されても、実際に診療を受けていない場合が多いのではないか。

私は他の企業で産業医をやっているが、約50人の従業員のうちストレスチェックで何らかの指摘を受ける人が約2割いる。教職員でも同様の割合で問題を抱えている可能性がある。

メンタル的に落ち込んでいる教職員が果たして診療所に行って、きちんと相談しているのかどうかを知りたい。この点について、実態が分かればまた教えてほしい。

(井上教育長)

五條市内の教職員で休職している人は数名いる。やはりその理由というのは、メン

タル面である。残業量やその他の事柄においてチェックを受けて、法的に受診義務がある人は全員受診していると思うが、管理職による経過観察などの指摘を受けた人については、見守る必要がある。

今後、必要であれば遠慮なく相談に行けるような体制を整え、教職員に寄り添っていく。

資料15ページの現状と課題の項目で記載されている「五條市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を今作ろうとしている。原案はほぼできているが、国の大きな方向性に基づき、メンタルヘルス対策や業務量管理について、早急にまとめる予定である。

教職員だけではなく、市職員も含めてメンタルヘルスについて、しっかりと寄り添うことが大切だと考えているため、またご意見をいただきたい。

【今後のスケジュールについて】

(池嶋市長公室長)

本日協議いただいた内容等を踏まえて、第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画の最終決定に向けて、策定を進めていく。

なお、第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画については、最終決定後、公表するとともに、令和8年3月議会の総務文教委員会にて報告する。

また、本日の協議内容については、冒頭で申し上げたとおり、五條市ホームページで議事録を公開することについて、了承いただきたい。

4 教育長挨拶 要旨

本日は私たちの五條市、そして五條市の将来を担う子どもたちの教育に関わる重要な案件について、ご協議いただいたこと、感謝申し上げます。

第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画について、いよいよまとめていく時期になっている。いただいた貴重なご意見を参考にして、より現実に即したものにしていきたいと考えている。

教育大綱というのは木に例えると「幹」、基本計画は「枝葉」にあたると思っている。やはり枝葉をしっかり張り巡らせることが大切であり、いろいろな方向に枝は伸びていく。子どもたちの方向性、そして市民の方向性もいろいろあると思うが、それらを大きくまとめて、市教育全般の方向性を整えていきたい。

豊かなつながり、そして、夢と安らぎのあるまちづくり、これが基本であると思っている。そこに基礎力、学校力、そして教育環境、生涯学習力、更には、人間力、これらを入れ込んでいくため、しっかりと数値目標を定め、それに向けて邁進していきたい。

五條市の更なる教育の発展を目指していくため、今後ともご協力をお願いしたい。

(終了)